

2025 年 9 月



NPO 法人横須賀つばさの会第 2 2 3 回定例会の案内

理事長 下江秀雄

今年もこの猛暑でまいりますが、如何お過ごしでしょうか。10月には少し良くなる事を期待します。精神疾患は薬との付き合い方が大事です。高齢になると内服薬も増え心配します。また、最近、睡眠の大切が言われています。今回は、中野先生にお願いしました。また、先生を囲んだ懇談会をしますので先生にお聞きしたいことを準備して下さい。

記

日 時 : 2025年10月2日(木) 14:00~16:00

場 所 : ウェルシティ市民プラザ 横須賀市保健所3階 第一研修室

テーマ : ① 統合失調症の薬
② 健康づくりのための睡眠

講 師 : 湘南病院副院長 中野浩志 先生

当日の予定: 前半は講演、後半は中野先生を囲み懇談会をします。



以上

横須賀市自主防災組織連絡協議会との防災協定の締結について

大規模地震への備えや、発生時の迅速な生活支援を行おうと、湘南信用金庫（理事長 鷲尾 精一）は、横須賀市自主防災組織連絡協議会と防災協定を締結しました。「昨今の災害の頻発化、激甚化には脅威を感じている。金融サービス提供にとどまらず、強固な地域コミュニティをしていきたい」と話した。震災時避難所が設置された場合には同信金の店舗網を活用して連携して運営等に当たる。

1. 協定の概要

- ① 横須賀市内の震災時避難所の避難所運営訓練に、湘南信用金庫の職員が参加する。
- ② 大規模地震発生時、営業店近隣に居住する市民に、湘南信用金庫の備蓄品（飲料水、食料等）を供給する。
- ③ 大規模地震発生時、地域の震災時避難所へ職員を応援派遣する。また、避難している市民に対する金融相談窓口を設置する。

2. 協定の締結日 令和7年8月25日

3. その他

※横須賀市内に15店舗の店舗網を持つ湘南信用金庫が、横須賀市内での局地的な災害発生時に店舗網を活用しての備蓄品の供給や職員の応援等が期待できる。

※横須賀市自主防災組織連絡協議会について

横須賀市自主防災組織連絡協議会は、市内の町内会、自治会から組織されており、各自主防災組織の連携を図り、広域的な災害への対応力の強化を目的としています。



2025 年度（令和 7 年）神奈川県精神保健福祉家族住民交流事業

NPO 法人じんかれん 第 51 回『県民の集い』in 横須賀

精神医療に関する最新の状況と課題

～みんなで考えよう私達の未来～

【日 時】2025 年 11 月 13 日（木）13：00～16：15（開場受付 12：00）

【会 場】ウェルシティ市民プラザ 横須賀市生涯学習センター

（まなびかん 5F）横須賀市西逸見 1 丁目 38 番 11
（JR 横須賀線横須賀駅・京浜急行逸見駅より共に徒歩 5 分）

無 料（定員 200 名）※要事前申し込み（裏面参照）

※当日参加も可能ですが、資料準備の関係上、出来るだけ事前申し込みをよろしくお願い致します

《プログラム》

12：00	開場（受付）
13：00～13：30	式典
13：40～15：30	基調講演
15：30～15：40	休憩
15：40～16：10	アトラクション
16：15	閉会

【基調講演】

講師 精神科医 夏苺郁子氏

患者の家族、患者、医師という 3 つの立場を経験しています。

【アトラクション】

「元気に！ みんなで歌おう」

歌唱指導・ピアノ伴奏 さくらの会
ソプラノ歌手 藤井直美さん



【会場】

ウェルシティ市民
プラザ
（保健所の上、5F）

主催：NPO 法人 じんかれん（神奈川県精神保健福祉家族会連合会）

NPO 法人 横須賀つばさの会（横須賀市精神障害者家族会）

後援：横須賀市・（社福）神奈川県社会福祉協議会・（N）神奈川県精神障害者地域生活支援団体連合会・
（一社）神奈川県精神科病院協会・（一社）神奈川県精神神経科診療所協会・（一社）神奈川県精神保健福祉士協会・（一社）神奈川県医療ソーシャルワーカー協会・（一社）日本精神科看護協会神奈川県支部・（一社）神奈川県精神保健福祉協会（順不同）

《講師 精神科医 夏苅郁子氏 プロフィール》

昭和 29 年北海道生まれ。勤務医を経て、2000 年静岡県焼津市に、「やきつべの径診療所」を夫と共に開業。幼い頃、母親が統合失調症となり、自らも、うつ病を患い、学生時代に精神科病院に通院した経験を持つ、家族、当事者、医師という複数の「顔」があります。

《NPO 法人 さくらの会について》横須賀市内を中心とした高齢者を対象に、童謡・唱歌・世界民謡・懐メロなどをみんなで楽しく一緒に歌う会員 2,000 名ほどの会です。さくらの会は「下手でいい！下手がいい！」を合言葉。歌を通じて平和を願い健康で心豊かな生活が送れるよう、高齢者の福祉の増進に寄与することを目的としています。令和 5 年「市民公益活動に貢献した」として、横須賀市から表彰されました。

《昼食場所について》

◎近隣に飲食店はありません。会場内で式典前にお弁当は食べられます。近くにコンビニが 4 か所あります。

◎天気が良ければ、JR 横須賀駅に隣接する ヴェルニー公園のベンチより横須賀本港に停泊する海上自衛隊横須賀基地の自衛艦、米海軍の艦船や潜水艦を近くで見られます。

《 問 い 合 わ せ ・ 申 し 込 み 》

じんかれん事務所: (火・木 9:00~15:00)

TEL045-821-8796 FAX045-821-8469 E-mail

jinkaren@forest.ocn.ne.jp

☆ 問い合わせ、申し込みはじんかれん事務所他、つばさの会理事にても承ります。



NPO 法人じんかれん 県民の集い in 横須賀 参加申し込み書
各家族会理事又はじんかれん事務所へ FAX またはメールでお申し込み下さい。
申込状況等についてはじんかれん HP「県民の集い」を検索下さい。



	フリガナ 氏 名	該当するお立場に○をつけてください	所属会 又は お住まいの地域
①		家族・当事者・行政・医療・福祉・学生・一般	
②		家族・当事者・行政・医療・福祉・学生・一般	
③		家族・当事者・行政・医療・福祉・学生・一般	
④		家族・当事者・行政・医療・福祉・学生・一般	
⑤		家族・当事者・行政・医療・福祉・学生・一般	

超ポジティブに生きる作家 岸田奈美さん

解剖学者 養老武司さんとの対談
2025. 8. 26 NHK ハートネットTV より

“家族だから愛したんじゃないくて、愛したのが家族だった”等の著書で知られる作家 岸田奈美さん（34）がTV出演され、超ポジティブに生きる家族、人生訓について話された。

中学1年生の時、企業家の父親が心筋梗塞で突然死、4歳年下の知的障害のある弟（ダウン症）との暮らしの中で、高校1年生の時、母親は大動脈解離という思い病気により、下半身マヒになる。車椅子生活の母親、知的障害のある弟、認知症の祖母という家族の中で、一見するとハードモードな家庭環境ではあるものの、岸田奈美さんの底抜けにポジティブでセンスのあるエッセイが評判を呼んでいます。

対談では、「私が家族を書く理由」と現在について赤裸々に語られた。

家族と寄り添う、家族からは逃げられない中で、「自分自身で自分の多様性を捉えながら幸せの道を進んでいくしかない」という。

車椅子生活を送る母親やダウン症の弟との生活の中で、ハードは変えられなくても、ハートは変えられる、落ち込んでいるときには、判断しない方が良い。

奈美さんは持ち前の瞬発力と行動力で目の前の、諸手続きもすばやく、問題を解決していく。

誰かを愛するには、相手のことも自分のことも愛せる適度な「距離」が必要と知る。

母親ひろ実さんは大病を患って、下半身マヒとなり、車いす生活を与儀なくされて、当初「死にたい」といって、奈美さんから「死にたいなら死んでもいいよ」。と言われ「死なないで」と泣いてすがられると思ったら真逆の反応で一瞬、耳を疑ったけど、想像もしなかった「死んでもいい」という選択肢を与えられたことで、心がふっとゼロに戻ったのを覚えている。もう一度、自分に何ができるかを考えてみようと思えたんだよねと語る。

奈美さんのひと言で目が覚めたひろ実さんは心理学を学び、後に奈美さんが創業メンバーの一人であるベンチャー企業に就職。

現在、ひろ実さんは奈美さんが立ち上げたベンチャー企業の顧問として、講演やコーチングで日本全国を車椅子で飛び回っている。弟は自分の強みを見つけて、明るく元気で、暮らしている。



障害者を“動物”に例えた書籍が発売前から炎上

「差別の助長」か「言論の自由」か…法的な評価は？

4月22日発売の書籍『職場の「困った人」をうまく動かす心理術』（神田裕子著／三笠書房）をめ

ぐり、発達障害や精神疾患のある人々を動物に見立てて紹介する表現や「異臭」「手柄の横取り」などの記述に対して、「差別を助長している」との批判が発売前から相次いでいた。

複数の障害者団体が抗議の声明。18日、一般社団法人「日本自閉症協会」がホームページに声明を発表。『職場の「困った人」をうまく動かす心理術』について「障害に対する誤解を生み、差別や偏見、分断を助長するものと判断します」と記した。

声明では「ASD（自閉スペクトラム症）やADHD（注意欠如多動症）の発達障害を一方的に『困った人』として扱っていることは誤解を生みます」と批判。また、同著ではASDの特徴として「異臭を放ってもおかまいなし」、ADHDの特徴として「同僚の手柄を平気で横取り」などと記載されている点について「特異な事例をことさら強調しているため偏見につながります」と指摘している。

著者「差別的な意図はない」「病気や障害の有無にかかわらず、人は誰しも誰かにとっての『困った人』となりえます。それを念頭に『相手を知ろうとする姿勢』や『お互いさまの精神』が重要である、との視点に立っています」（三笠書房の声明から）

ホームページには著者である神田裕子氏の見解も掲載された。同氏は「障害があるなしにかかわらず、互いに理解し合って相手の嫌がることをせず、適材適所で働ける環境がほしい」との意図から「具体的な対処法を本の中で示したつもり」とであると説明している。

また、障害者を動物で例える表現を用いたことについては「愛おしいもの、ピュアなものの象徴としてとらえており、差別的な意図はまったくありませんでした」と釈明した。

「障害者基本法」では「何人も、障害者に対して、障害を理由として、差別することその他の権利利益を侵害する行為をしてはならない」と定められている（4条1項）。

同法における「障害」の定義は「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害」。当然、ADHDやASDなども含まれる。したがって、それらの障害を動物に例える、「異臭を放ってもおかまいなし」や「同僚の手柄を平気で横取り」などとネガティブな特徴を強調することが差別であるなら、障害者基本法の理念に反することになる。ただし、障害者基本法では罰則が定められていない。

高齢者の一人暮らしを見守る自治体サービスについて

一人暮らしの高齢者が増加する中で、見守りサービスの重要性は年々高まっています。離れて暮らす家族にとっても、高齢者本人にとっても、安心して日常を送るための支えとなる制度です。

見守りサービスとは、主に高齢者の安否や生活状況を定期的に確認する仕組みのことを指します。具体的には、電話や訪問、センサーやカメラなどの ICT 機器を活用し、異変があれば速やかに発見・対応できる体制を整えることが目的です。

このサービスには公的支援（自治体）によるものと民間サービスの 2 種類があり、対象者の生活状況や要介護度に応じて選択されます。自治体の見守りサービスは費用負担が少なく、地域との連携を前提にしているため、社会的つながりの中での支援が実現しやすいという特長があります。

自治体が見守りサービスを提供する背景には、急速に進む高齢化と、それに伴う独居高齢者の増加という社会課題があります。一人暮らしの高齢者は、健康面や精神面でのリスクが高く、孤立や孤独死といった深刻な問題が発生しやすくなっています。

こうした現状に対応するため、自治体は地域包括ケアシステムの一環として見守り事業を推進しています。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、住民、民間、行政が連携した多層的な支援が必要とされているのです。また、災害時や急病の際の早期対応にもつながるため、命を守るサービスとしての役割も果たしています。

横須賀市 介護保険課によると、「緊急通報システム」はセンサーで人の動きを一定時間感知しなかった場合、委託事業者の受信センターに自動で緊急通報され、家族などに連絡する仕組みになっている。横須賀市は 2025 年 8 月 1 日時点で市民 2740 人が利用している。

高齢者の一人暮らしには、いくつものリスクが潜んでいます。まず、病気や転倒など、突然の体調不良に気づかれにくいという点があげられます。周囲とのつながりが薄いと、異変が発見されるまでに時間がかかり、命に関わるケースも少なくありません。

さらに、精神的な孤独感や認知機能の低下も一人暮らし高齢者が抱える課題です。日常的なコミュニケーションの機会が少ないと、心身の健康に悪影響を及ぼすことが研究でも示されています。見守りサービスはこれらの問題に対して、定期的な接触や声かけを通じて支援を届ける役割を果たします。また、災害発生時や熱中症シーズンなど、命に直結する状況での備えとしても極めて有効です。単なる安否確認にとどまらず、地域のつながりを深める意味でも、見守りサービスの導入は不可欠といえるでしょう。

【見守りサービス利用方法】

- 65 歳以上の一人暮らし高齢者
- 要介護認定を受けている人
- 身寄りがいない、または遠方に家族がいる人
- 病気や障害により、常時見守りが必要な人

（ネット検索 & 一部神奈川新聞より）

対象条件を満たしていることを確認できたら、市区町村の福祉課または地域包括支援センターに相

談しましょう。ここでは、サービスの内容や申請方法、提供事業者の情報などが詳しく案内されます。



《家族交流会》

担当 木原啓子 080-3383-2214

9月24日(水) 本町コミュニティセンター(総合福祉会館6階)第二会議室 13:00~15:00

10月22日(水) 本町コミュニティセンター(総合福祉会館6階)第二会議室 13:00~15:00

参加者は7月23日12名それぞれの家族の近況を語り合い有意義な時を過ごせました。
予約なしで参加していただけますので時間内にお気軽にお立ち寄りください。

なお、9月と10月の本町コミュニティセンターは第二会議室ですので
お間違えないようにお願いいたします。



発行人/ 特定非営利活動法人
障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区祖師谷 3-1-17
ヴェルドゥーラ祖師谷 102号室
TEL 03-6277-9611 FAX 03-6277-9555

編集人/ NPO法人横須賀つばさの会
〒237-0076 神奈川県横須賀市船越町 1-50
山田ビル 2F
TEL 046-861-2373
定価 50円(会員は会費の中に含まれます)